
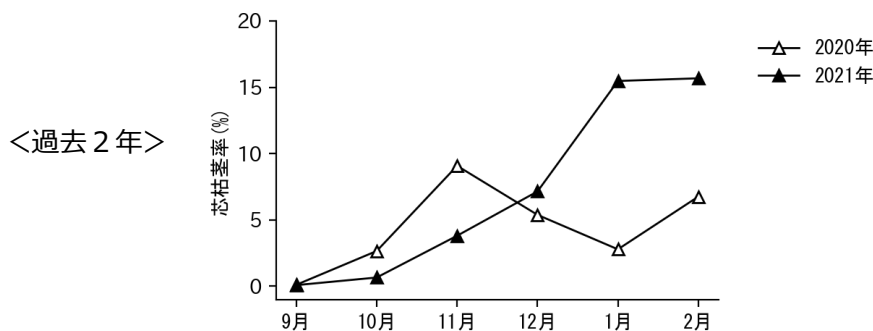
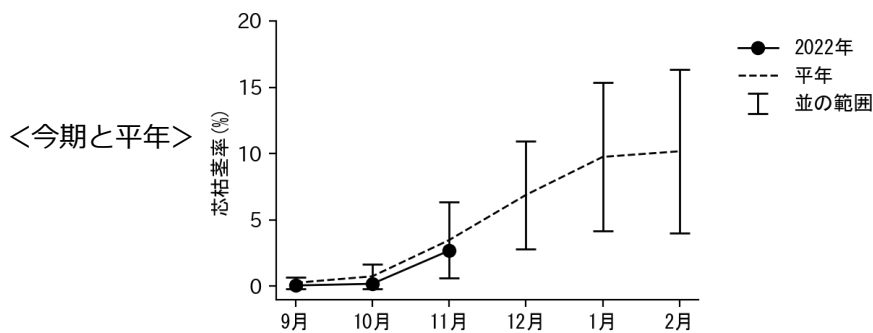


作物	さとうきび	地域	宮古群島	
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	11 月の発生量 (平年比)			並
予 報	11 月からの増減傾向			↗
	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


芯枯茎率の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類は、全てカンシャシクイハマキであった。
- ・ 発生ほ場率60.0% (平年 : 77.6%)

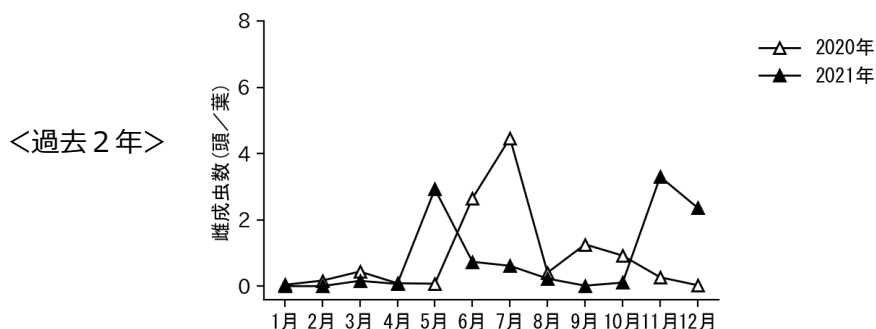
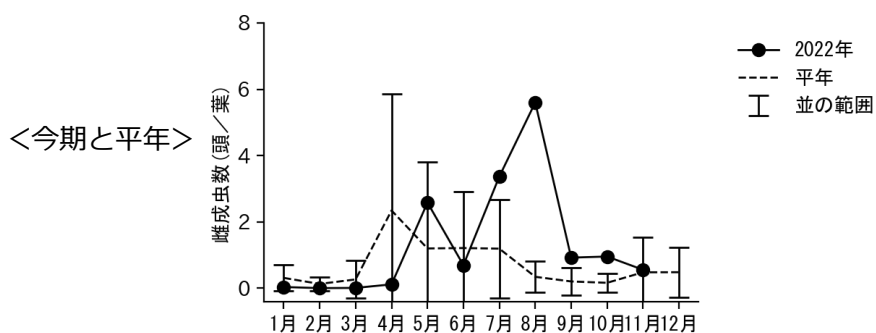
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	→	
		12 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率20.0% (平年：30.0%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

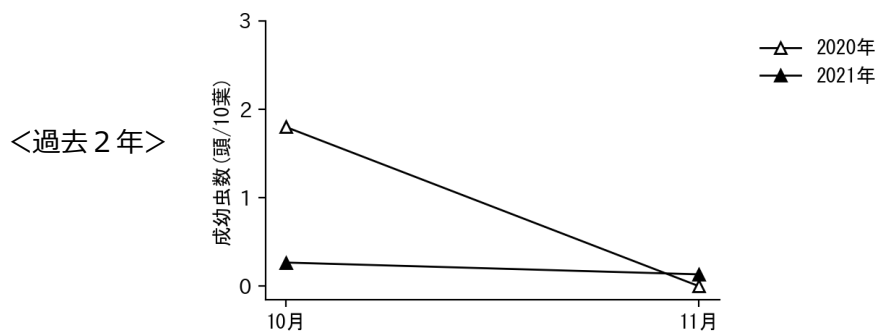
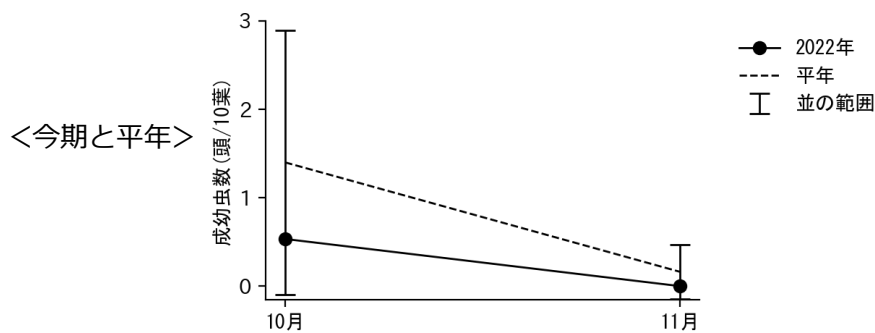


マンゴーツメハダニ

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	アブラムシ類		 <p>有翅虫</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	11 月からの増減傾向	—	
		12 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移




・発生ほ場率0% (平年 : 14.3%)

防除のポイント

- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。
- ・本種はウイルス病を媒介する。

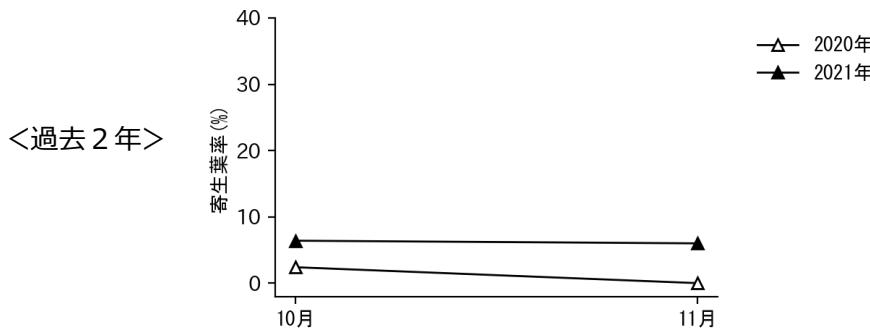
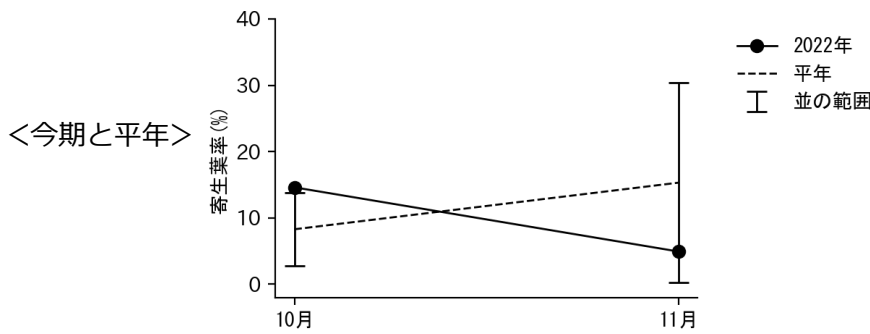


無翅虫

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

寄生葉率の推移




・発生ほ場率83.3% (平年 : 40.6%)

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する可能性があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

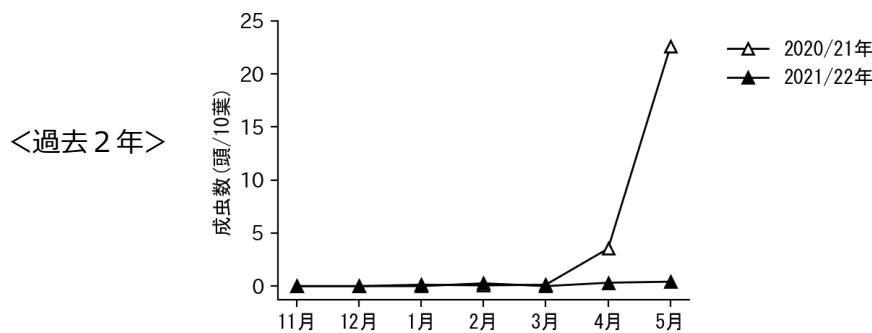
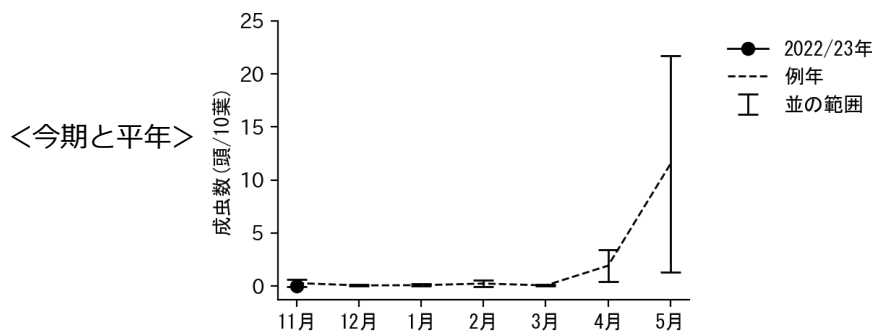
幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)



作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	11 月からの増減傾向	→	
		12 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率0% (例年：26.7%)

防除のポイント

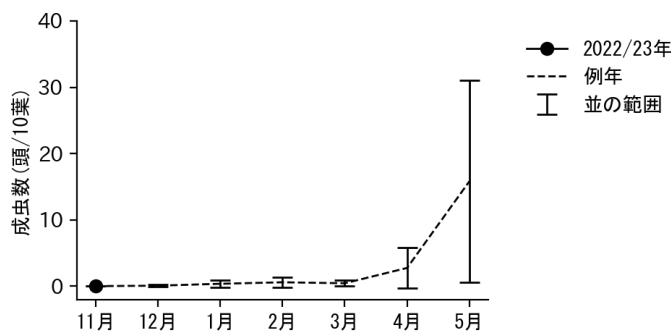
- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	 <p>成虫</p>
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

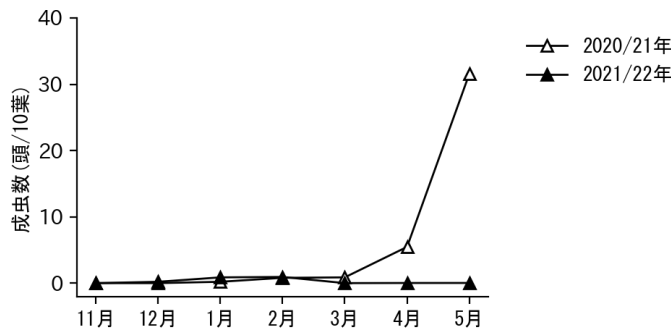
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生施設率20.0% (例年：0%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。



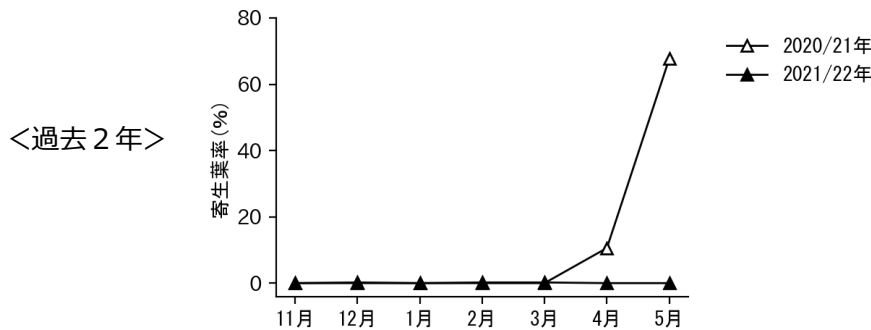
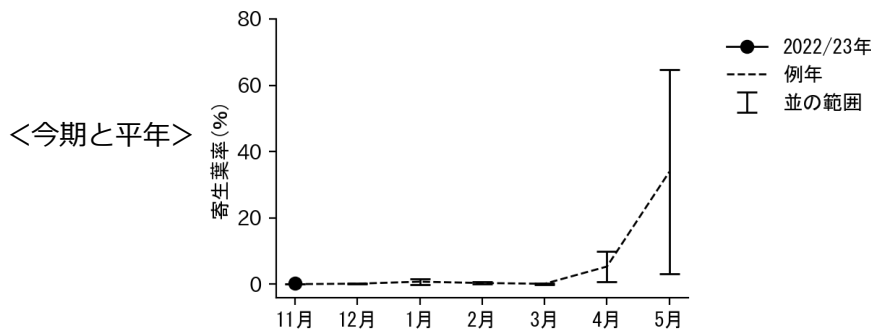
幼虫

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	多	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	



調査結果

寄生葉率の推移




・発生施設率20.0% (例年：0%)

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する可能性があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

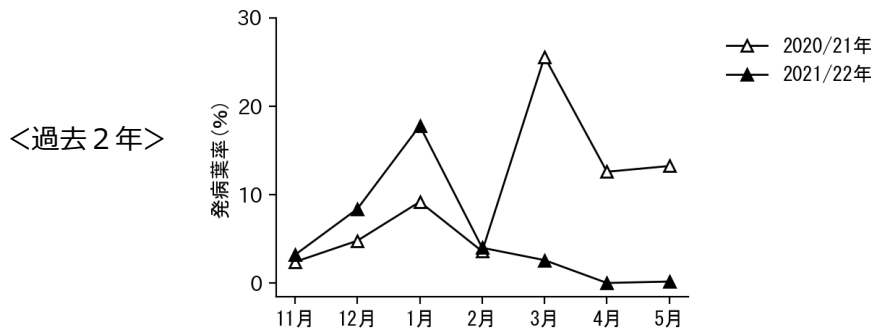
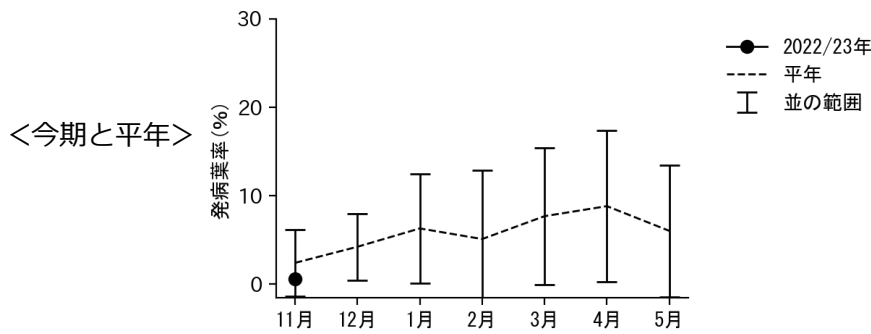


幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)

作物	ニガウリ(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	11 月からの増減傾向	↗	
		12 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率20.0% (平年 : 25.5%)

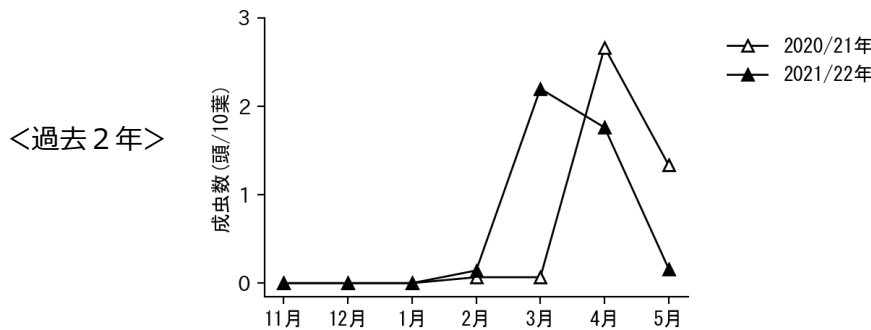
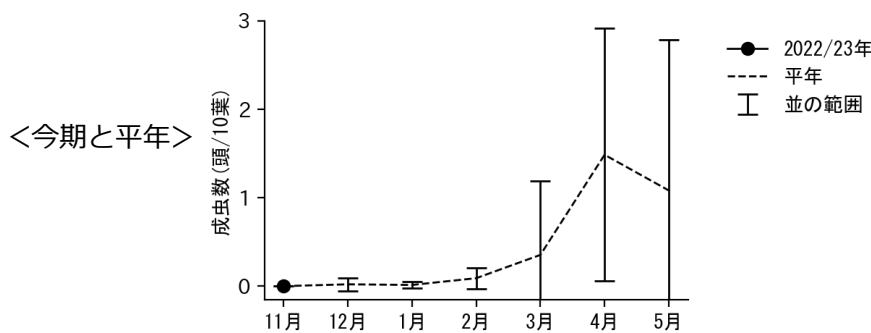
防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率0% (平年 : 0%)

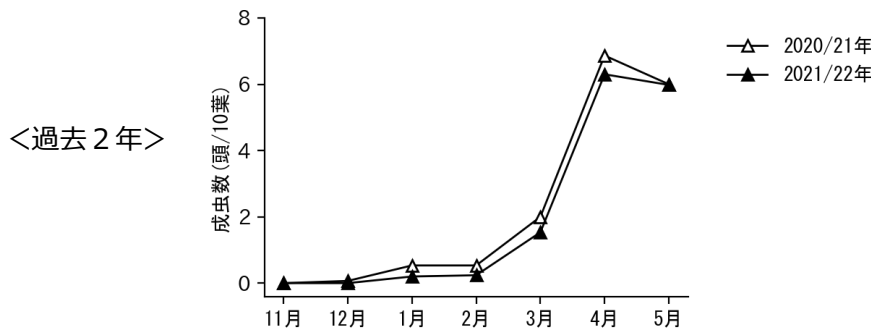
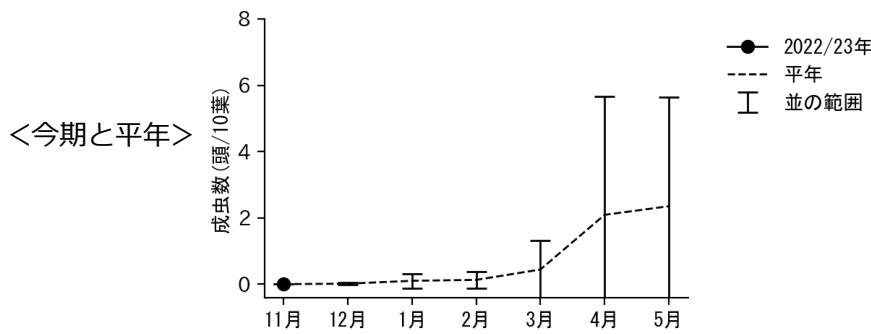
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率0% (平年：0%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。



幼虫